

## 視察研修結果報告書

令和4年3月30日

栗原市議会議長 佐藤 千昭 殿

栗原市議会議員 三浦 善浩 

視察・研修した結果について、下記のとおり報告します。

### 記

- 1 期 間 ①令和4年3月14日（月）、令和4年3月16日（水）  
②令和4年3月26日（土）、令和4年3月28日（月）
- 2 視察研修先 動画データ郵送により視聴
- 3 目 的 ①財政基礎研修 Level 1 世界一わかる自治体財政編  
②財政基礎研修 Level 2 決算カードでわかる我が街の財政  
徹底解説編
- 4 調査研究内容 別紙のとおり
- 5 参加議員 三浦 善浩



# 財政基礎研修 L e v e l ①

## 世界一わかる自治体財政編

受講日時 ①3月14日（月） 9：00～11：30

自治体財政の基礎的理解のために

②3月14日（月） 13：30～16：00

財政基礎 歳入編

③3月16日（水） 9：00～11：30

財政基礎 歳出編

④3月16日（水） 13：30～16：00

財政健全化のための基礎的課題

講 師 森 裕之 氏

立命館大学 政策科学部 教授、博士（政策科学）

所 感

① 自治体財政の基礎的理解のために

初めに地方財政全体を理解するために、細かい違いにとらわれないこと、収入と支出がすべてである点では、自治体も家計や企業とまったく同じであることなどの基礎的な説明がありました。続いて自治体の歳入や歳出を家計にたとえて理解するよう講義されました。また、決算カードのレイアウト的（どの辺に何が書いてあるか）な説明がありました。

② 財政基礎 歳入編

一般財源は、自治体の標準的なサービスを賄うためのもので、地方税と地方交付税が主なものであります。一般財源（基準財政需要額）をペットボトルにたとえて地方税がすでに入っているお茶、注ぎ込むお茶（不足分）を地方交付税にたとえて分かりやすく話されました。また、臨時財政対策債が出てきた理由や国庫支出金（補助金）や地方債などの項目

の説明がありました。

### ③ 財政基礎 歳出編

目的別歳出と性質別歳出の違いについて、目的別歳出（目的別経費）は、教育のために使われたのか、福祉のために使われたのかなど、行政目的ごとに歳出を分類したものであり、性質別歳出（性質別経費）は、人件費に使われたのか、建設費のために使われたのかなど、経費の経済的な性質ごとに歳出を分類したものであり、自治体財政の分析にとっては、性質別歳出の方が重要とのことでした。また、歳出を見る場合の注意点についても総論・各論から説明されました。

### ④ 財政健全化のための基礎的課題

財政の黒字・赤字の視点から、財政の持続可能性を保つためには、歳入を歳出が上回る赤字の状態にならないようにしなければなりません。そして、財政の黒字がある場合、それを住民サービスとして支出するか、将来に備えて基金（貯金）に積み立てるかを判断するのは政治の役割になります。財政収支の算出や経常収支比率の考え方、健全化判断比率から財政の健全性を見るポイントについて学びました。（夕張市の財政破綻をうけて、現行制度になったことなど）

## 財政基礎研修 L e v e l ②

### 決算カードでわかる我が街の財政徹底解説編

受講日時 ①3月26日（土） 9：00～11：30

　　決算カード 1 「コロナと収入」

②3月26日（土） 13：30～16：00

　　決算カード 2 「コロナと支出」

③3月28日（月） 9：00～11：30

　　決算カード 3 「財政収支の見方」

④3月28日（月） 13：30～16：00

　　決算カード 4 「財政指標の見方」

講 師 森 裕之 氏

立命館大学 政策科学部 教授、博士（政策科学）

所 感

① 決算カード 1 「コロナと収入」

自治体財政の原則は、公平（水平的公平・垂直的公平）と効率（最小の経費で最大の効果をあげなければならない）、そして民主主義・議会の役割（財政は「住民全員のお金」であるから、みんなで話し合って決めなければならない）と話されました。また、コロナ禍による市町村の歳入決算額の変化やコロナ関係対策国庫支出金についても説明がありました。

② 決算カード 2 「コロナと支出」

目的別歳出（住民一人当たりのコスト）について、財政状況資料集の実際の事例（福山市の教育費や別府市の民生費、船橋市の公債費など）を使っての説明がありました。PFIの考え方（例）として、直営事業とPFI事業の違いについての話がありました。

また、コロナ禍における市町村や都道府県の目的別歳出決算額と性質別歳出決算額の内訳の推移についても説明がありました。

### ③ 決算カード 3 「財政収支の見方」

財政破綻の前には基金がなくなってしまいます。そのことから、実質収支および実質単年度収支の数年間の推移や積立金現在高の推移を見ていくことが重要あります。

また、新潟市や浜松市などの実例を通して収支の説明や京都市の財政危機、堺市の収支不足の予測と基金残高（普通会計）の見通し、市町村と都道府県におけるコロナによる基金の変化についての説明がありました。

### ④ 決算カード 4 「財政指標の見方」

経常収支比率は最も基本的な指標（義務的性格の強い経常的経費に地方税、地方交付税等の経常一般財源がどの程度使われているかを見る指標）ということで、別府市の実例（決算カード）や家計に例えた説明、さらには財政状況資料集（別府市の人件費や物件費、福山市の普通建設事業費など）を使っての分析や経常収支比率の考え方を学びました。

また、コロナ禍における市町村や都道府県の財政指標（経常収支比率、実質公債費比率）や財政の健全性を見るポイント（健全化判断比率の数値、財政調整基金の相対的大きさ、財政の各指標や項目の近年の傾向、財政が住民福祉にきちんとつながっているか否か）について講義されました。

